

JRAT 活動報告書

■公開可 □公開不可

令和2年 1月 9日

都道府県	長崎県	報告者	事務局 淡野 義長		
団体名称/ 参加団体	長崎災害リハビリテーション推進協議会(長崎 JRAT)				
実施内容	<input type="checkbox"/> 組織化・連携	<input type="checkbox"/> 研修会	<input checked="" type="checkbox"/> 訓練等	<input type="checkbox"/> その他	
実施日	令和2年11月30日	実施場所	長崎県内各所		
概要	<p><u>令和元年度原子力防災訓練(玄海原子力発電所)参加</u></p> <p>1. 訓練目的 災害対策基本法及び原子力災害対策特別措置法並びに長崎県地域防災計画等に基づき、原子力防災関係機関及び地域住民が一体となった原子力防災訓練を実施し、緊急時における通信連絡体制の確立、緊急時モニタリング活動等の災害対策の習熟と防災関係機関相互の協力体制の強化を図るとともに、住民の原子力防災に対する理解の促進を図る。</p> <p>2. 日 時 令和元年11月30日(土曜日) 8:00 から 14:00</p> <p>3. 主 催 長崎県、松浦市、佐世保市、平戸市、壱岐市</p> <p>4. 活動内容 長崎県からの参加打診を受け、県内を中心に8カ所(うち1カ所は福岡県内)に設置された模擬避難所のうち、3カ所に参加し、講話等を実施した。</p> <hr/> <p>1. 平戸中学校</p> <p>参加者: 地域住民、行政機関、医療機関、その他関係機関</p> <p>参加者総数: 約55名(平戸市 大島地区、度島地区、大久保地区)</p> <p>※避難訓練に参加した地域住民の人数</p> <p>企画: 実施主体は長崎県医療政策課</p> <p>構成: 全体</p> <p>9:00~9:45 会場設営(避難所、スクリーニング、除染、受付、問診)</p> <p>9:45~10:30 救護所設置本部報告、事前打ち合わせ、準備品確認、情報収集</p> <p>10:30~11:00 情報収集、待機</p> <p>11:00~11:50 スクリーニング、除染訓練</p> <p>住民登録訓練</p> <p>問診、健康相談訓練</p> <p>12:00~12:40 原子力災害医療講和、エコノミークラス症候群対策講和</p> <p>講和完了報告</p> <p>12:40~13:20 会場片付け、反省会</p> <p>長崎 JRAT</p>				

7:30～10:30 病院から平戸中学校までの移動

10:30～11:00 平戸の OT 県士会メンバーと合流し打ち合わせ

11:00～12:00 避難所統括責任者への挨拶と打ち合わせ、その他訓練の見学

12:00～12:30 避難所生活について「エコノミークラス症候群」「生活不活発」「転倒予防」
を中心に講和と体操を実施

12:30～13:00 片付けの手伝い後終了

13:00～15:30 平戸中学校から病院までの移動

長崎 JRAT の内容: 救護所・避難所設置訓練時の中で、主にエコノミークラス症候群、生活不活発、転倒の3点について病態や注意点、予防に関する知識と運動などを共通教材にて講義した。講和後に DVT 予防の体操等実施。厚労省からの啓発チラシを配布。

訓練の様子(写真):

○長崎 JRAT の講和、体操



総括(感想含む)

- ・現地到着後に避難所統括責任者等と顔合わせを行い、講和の流れについての説明を受けた。
- ・関係機関との連携構築を考えると、当面は同地区の長崎 JRAT メンバーが一人は参加することが望ましいと感じた。
- ・例年、防災訓練を実施しており、訓練中の住民は落ち着いて行動できている様子が窺えた。
- ・長崎 JRAT は今年度から参画、エコノミークラス症候群予防、生活不活発予防、転倒予防の話、DVT 予防の体操などでは、住民や関係機関も興味をもって聴講している様子があったように感じた。
- ・体操等の実施では住民の方が近いので、あらかじめ少し前後左右との椅子のスペースを空けた環境設定を検討しても良いか。
- ・スクリーニング、除染訓練、住民登録訓練、問診、健康相談訓練を終えた後、住民によっては、「原子力災害医療講和、エコノミークラス症候群対策講和」が始まるまでの待ち時間が長い場合、その時間を利用して個別に避難所生活の注意点や JRAT の紹介する時間を設けてもらっても良いか。
- ・今回の訓練目的とは異なる可能性はあるが、スクリーニングや除染訓練等だけでなく、避難所生活を想定した体験研修などが行うことが、今後の課題と感じた。

作成日: 令和元年 12 月 4 日

報告者: 生田敏明(長崎リハビリテーション病院: 作業療法士)

福崎祐介(柿添病院: 作業療法士)

2. 波佐見体育センター

参加者: 地域住民を対象とした複数個所同時開催の防災訓練。実施主体は長崎県医療政策課

参加者総数: 55 名程度

構成:

9:00 開始 関係者挨拶

10:20 関係者打ち合わせ

11:00 避難住民順次到着

残存放射線スクリーニング・除染・問診・ヨウ素剤説明・アンケート記入・啓発チラシの配布

11:50 講話 波佐見町保健福祉課

長崎 JRAT エコノミークラス症候群など避難所生活での課題について

12:20 自衛隊炊き出しでの昼食後に住民解散、反省会・片づけ(13:00 頃終了)

内容: 救護所・避難所設置訓練時の「避難生活にかかる講話」の中で、主にエコノミークラス症候群、生活不活発、転倒の3点について病態や注意点、予防に関する知識と運動などを共通教材にて講義した。厚労省からの啓発チラシを配布

総括(感想含む)

住民の参加者は、小・中学生～自治会関係者など幅広い年齢層が参加していた。避難訓練には毎年参加されている方が多く、手順などを理解されて参加されていた。講話についても真剣に聴講され、「貴重品をもって非難すると、動きたくても動けなくなるがどうしたらよいか」との質問があった。また、住民の参加者すべてが、実際の非難体験や被災地へのボランティア経験はなく、具体的な避難所のイメージは難しい様子だった。この為、避難所でのエコノミークラス症候群や生活不活発や転倒予防のための内容に加えて、長崎 JRAT の活動報告会などでのエピソードを加えながら話を進めた。その上で、避難所運営(役割作り、環境調整、住民同士の見守りを中心に)の必要性を付け加えた。

実際の避難～残存放射線スクリーニング等までの訓練に加えて、避難所体験・避難所運営体験をセットにした防災訓練にすることで、避難の実施から避難後の避難所生活までの連動した訓練になると感じた。

一方で、今回の会場で参加されていた鷹島地区の方々は、待ち時間などに年配の方から中学生まで交えて会話している場面を認めた。地域住民同士のつながりがある地区でもあり、平時から強みを活かした避難所運営を訓練しておくことで有事の際の有効な対応につなげられるよう助言することも、長崎 JRAT の役割であるように感じた。行政や地域の社協との連携強化を望みたい。



令和元年 12 月 5 日作成

報告者: 佐藤公紀(長崎リハビリテーション病院:作業療法士)

山口泉美(三河内病院:作業療法士)

3. 彼杵児童体育館

参加者：地域住民を対象とした複数個所同時開催の防災訓練。実施主体は長崎県医療政策課。

参加者総数：61名（その他スタッフ多数）

構成：

10:00～11:00 会場設営（避難所、スクリーニング、除染、受付、問診）

11:00～12:00 救護所設置本部報告、事前打ち合わせ、準備品確認、情報収集

12:00～12:30 情報収集、待機

12:30～14:30 避難者到着（志佐小・中よりマイクロバスにて）、訓練開始

スクリーニング、除染、住民登録訓練、問診、健康相談訓練

原子力災害医療講話、エコミークラス症候群対策講話（担当セクション）

14:30～14:40 訓練完了報告、会場片付け、反省会

内容：救護所・避難所設置訓練時の「避難生活にかかる講話」の中で、主にエコミークラス症候群、生活不活発、転倒の3点について病態や注意点、予防に関する知識と運動などを共通教材にて講義した。厚労省からの啓発チラシを配布。

総括（感想含む）：

本訓練へは JRAT として初めての参加であり、当日の打ち合わせや準備、反省会等は行政の方がほとんど行われ、講話のみしたら良いという状況であった。以前から行われていた訓練のようであったが、これまでは原発事故が起こり実際に避難所に避難するまでのシミュレーションがほとんどだったとのこと。JRAT が担当し説明した避難後の避難所生活における注意点やスライド（写真）で示した避難所の風景等は、参加者の反応をみる限り興味深く聞いており、必要な内容だったのではないかと考える。今回の訓練では、以下の写真で示すように、参加者が①～⑦まで順に回っていく体験型で最後が⑦避難所であったため、DVD を流すために最初に座られた方は 30 分近く待つことになってしまった。今回は、20～30 人ほど集まったところでエコミークラス症候群予防の体操を行い対応したが、来た順に個別対応できるもの等、内容ついて改善の余地があるかもしれない。その旨は責任者の方に伝え、今回参加させて頂いたことについてお礼を伝え終了した。

<写真>



作成日：令和元年 12 月 9 日

報告者：藤本剛文（長崎リハビリテーション病院：理学療法士）

永田春輔（長崎リハビリテーション病院：理学療法士）

【オブザーブ参加】勝本町ふれあいセンターかざはや(苓崎市)

参加者: 地域住民、行政機関、医療機関、その他関係機関

参加者総数: 約 80 名(三島地区を含む苓岐市内住民)

構成: 全体

8:30 関係職員集合

9:00~9:50 会場設営(避難所、スクリーニング、除染、受付、問診)

9:10 防災告知放送あり。

9:50~10:40 救護所設置本部報告、事前打ち合わせ、準備品確認、情報収集

10:22 避難指示発令

10:40~11:10 情報収集、待機

11:10~12:20 スクリーニング、除染訓練、住民登録訓練、問診、健康相談訓練

12:20~13:00 講話、安定ヨウ素剤説明、訓練完了報告

13:00~13:40 会場片付け 反省会

見学内容

8:30 現地到着 スタッフ集合 避難所統括責任者、救護所統括責任者への挨拶

9:00~9:50 会場設営見学

9:50~10:40 打ち合わせ等見学

10:40~11:10 情報収集等見学

11:10~12:20 訓練等見学

12:20 以降は、都合により見学できておりません。

総括(感想含む)

- ・事前に、苓崎市危機管理課・市民福祉課の担当者に、当日見学させていただく旨を電話で伝えた。訓練開催数日前に、打ち合わせ会が行われたとのことであった。
- ・情報収集では、担当者がホワイトボードに、避難開始した地区住民の人数を記していた。
- ・除染訓練は都合により屋外ではなく屋内で行われた(当日、事前に説明が行われていた)。
- ・小学生を含む避難者が、次々とバスで避難所へ移動してきた。
- ・スクリーニング、除染訓練、住民登録訓練、問診、健康相談訓練等が行われた。その後、住民の方は、避難所の椅子に腰かけて待っておられた。
- ・避難所で、運動体験等を行うとすれば椅子間のスペースを拡げたほうがよいと思われた。
- ・後日保健師さんより、今年度は、防災士の方による講話が行われたようである。反省会での意見として、今後訓練への J-RAT 介入が望ましい、との意見が出されていたとのことである。
- ・今後、J-RAT が介入する機会があれば、事前の打ち合わせ会から参加すると訓練の流れが分かり活動しやすいと思われる。

作成日令和元年 12 月 16 日

報告者 下條洋子(光武内科循環器科病院:作業療法士)